

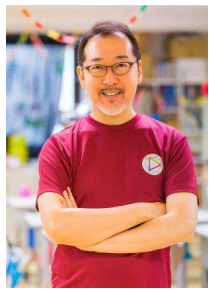


イメージカット

## 参考URL

- [ニュースウィーク日本版『子どもの時に、自宅に紙の本が何冊あったかが一生を左右する:大規模調査』](#)
- [Scholarly culture: How books in adolescence enhance adult literacy, numeracy and technology skills in 31 societies](#)

## 竹内 薫



日本語、英語、プログラミング言語で教えるトライリンガル教育のフリースクールYES International School横浜校、不登校・ホームスクーラーの学びの拠点となり、サポート支援するYES International School東京校長。東京大学教養学部教養学科(専攻:科学史・科学哲学)、東京大学理学部物理学科卒業。マギル大学大学院博士課程修了(専攻:高エネルギー物理学理論)。理学博士(Ph.D.)。大学院を修了後、サイエンス作家として活動。物理学の解説書や科学評論を中心に100冊を超える著作物を刊行。物理、数学、脳、宇宙など、幅広い科学ジャンルで発信を続ける。テレビ、ラジオ、講演など執筆以外にも多方面で精力的な活動を続けている。

次ページでは、今グローバルに活躍する人たちの本棚へのこだわりや思い出、自身を形作った読書体験を聞きました。

## グローバルに活躍する2人の読書体験、本棚歴

グローバルに活躍する人たちはそれぞれどのような読書体験を持っているのでしょうか。また、子育てにおいて本選び、本棚についてどのようなこだわりを持っているのか、「グローバル人材が育つ家」特集に登場する2名に聞きました。

#### 今井むつみさん(慶應義塾大学環境情報学部教授) 読書好きの両親に買ってもらった全集を何度も読んだ

両親が常に読書をしている人たちだったので、家の本棚はいつも様々な本で埋まっていました。父は歴史書が好きで、それぞれ20巻くらいからなる『世界の歴史』や『日本の歴史』などの全集が並び、すべて読破していました。哲学書やヨーロッパの古典も好きで岩波文庫のソクラテス、プラトン、カント、ショーペンハウエルなどが並んでいました。文学の本もたくさんありました。ロマン・ロランの『ジャン・クリストフ』や、サマセット・モームの『人間の絆』などの長編小説が何巻もずらりと並んでいるの見て、大人ってこんなに長い本を読んですごいなと思った記憶があります。高校・大学で読んだ文学書はほとんど家の本棚にあったものです。

父は勤務医で、朝から夜遅くまで病院にいたので、家で読書をしている姿はあまり見なかったのですが、本棚にあるものはほとんど全部読んでいたようです。いつ本を読んでいるのか不思議でした。自分自身、小学生のときは学校から帰ってからの楽しみは読書でした。児童文学全集を買ってもらい、何度も何

度も読んでいました。シャーロックホームズや怪盗ルパンもお気に入りでした。子どものときの読書が今の私を作ったと思っています(文/今井むつみ)。

夏野 剛(ドワンゴ代表取締役社長CEO)

海外SF小説をきっかけに、コンピューターに興味を持った少年時代

今の僕につながっている読書体験と言えば、小5から中学の頃にハマった海外のSF小説。特にアーサー・C・クラークが大好きで、全作読みました。青い背表紙の文庫をダーツと並べていましたね。『2001年宇宙の旅』の哲学的な世界観なんて、まだ中1の僕にはよくわからなかったと思いますが、自分なりに解釈して、読んでいました。そういう小説の世界からつながって、アマチュア無線やコンピューターにも興味を持ち、『ラジオの制作』というアマチュア無線やコンピューターに関する雑誌を購読するように。雑誌を見ながらコードを打ち込んだりするようになりました。その頃はまさか、将来NTTドコモに入るとは思ってもいなかったですよ(笑)。

今は小学校高学年と高校生、2人の女の子の父親です。我が家の本棚？ それがないんですよ。電子書籍に切り替えてからは、書斎の本棚はスパッと撤去して、あるのはクローゼットと机、パソコンだけです。

本棚に思い入れがあったときもあります。「本棚がその人の人生を表す」なんて思っていました。本を並べるときは見た目にもこだわり、高さを揃えたりしていました。その頃の本で、今、電子では入手できない専門書は残してあります。寝室の入り口にある本棚にひっそりと。それを時々娘たちがじっと眺めているんです。並んでいるのは経済学や複雑系といった、彼女たちの世界観にはない専門書。でも親が大事にしている本を目にして、何か感じているのかもしれないね。

でもやはり、本棚の神髄は、自分に必要な知識、情報を身近に置いて置けることです。電子書籍なら欲しい本が一瞬で手に入ります。特に洋書は、紙で入手するのが大変なので、電子書籍は本当に便利。現在、僕の蔵書は全てタブレットの中です。常にすべての蔵書を持ち歩けるし、探したいときもササッと検索できます。本棚だとそうはいかないでしょう。あれ、どこに置いたっけ、ということになります。

子育ての面で言えば、幼いころに文字を読むことに対する抵抗感を持たせないことは大事です。小4くらいまではデバイスを渡さないほうが良いと思います。子どもは文字よりも動画を見るほうがラクなので、動画を自由に見られる環境があると、読むことが面倒だと思ってしまうからです。

娘たちには幼児期には浴びるように読み聞かせをしました。絵本の多くは処分しましたが、お気に入りは今も保管してあります。その後、自分で読むようになると、家のあちこちに子どもの読み物が転がっているようになりました。低学年の頃はパズルやクイズの本がお気に入り、学年が上がるにつれて推理小説なども読んでいましたね。今どきの子らしいのが、マンガと本の垣根がないところ。読むことにも抵抗はなく、興味のあるものは何でも読んでいます(談)。



イメージカット